

令和7年度第2回一関地区広域行政組合舞川清掃センター運営委員会会議録

- 1 会議名 令和7年度第2回一関地区広域行政組合舞川清掃センター運営委員会
- 2 開催日時 令和7年11月26日（水）午後6時30分から午後7時10分まで
- 3 開催場所 舞川清掃センター2階会議室
- 4 出席者

- (1) 委員 千葉憲明会長、熊谷秀雄副会長、氏家壽栄委員、氏家一委員
氏家利明委員、吉家寅男委員、菅原徳一委員、菅原甲一委員
石川誠委員、佐藤儀幸委員、千葉誠委員、菅原勝亮委員
- (2) 事務局 佐藤正幸事務局長、菅原彰事務局次長兼一関清掃センター所長、
佐々木徹副所長兼施設第1係長、千葉聖也技師

5 議 事

- (1) 独自基準一般廃棄物（飛灰）の埋立完了について
- (2) 舞川清掃センター住民健康診断について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 あいさつ（事務局長）

本日はお忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。

また、日頃より当組合の管理運営につきまして、多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本日は、昨年度まで協議をいただき、今年度第1回運営委員会において埋立ての承認をいただいた、一関清掃センターに一時保管している独自基準一般廃棄物について、先日、舞川清掃センターへの埋立て作業が完了したので、ご報告をさせていただく。そのほか、例年実施している舞川清掃センター住民健康診断について協議をさせていただく。この後、担当から説明させるので率直なご質問やご意見をいただきたい。

最後に、今後も施設の維持管理には万全を期してまいりますので、引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

（以下会長が議長を務める）

9 協議内容

- (1) 独自基準一般廃棄物（飛灰）の埋立完了について
（事務局が会議資料により説明を行った。）

（質疑応答）

委 員 空間放射線量測定箇所①が今回埋め立てた場所なのか。

事務局 ①の測定箇所は昨年度まで指定廃棄物を保管していた場所である。

委 員 空間放射線量測定箇所で見ると、どの位置が埋立て場所に近いか。

事務局 3 ページ目の③と⑦の間に埋立てを行った。

委 員 ③の測定値が他の場所と比較して高くなっているが、影響があるのか。

事務局 これまでの測定結果でも、③は他の地点よりも若干高い場所であった。

委 員 それはなぜか。

事務局 地形や風向きなどの影響も考えられる。これまでの測定結果と比較して変化がないことから、埋立て作業による影響ではないとみている。

委 員 埋立て作業に入る前の通常時の測定結果と変わらないということか。

事務局 そうである。

委 員 吊り紐の破損があったとのことだが、袋の破損はなかったのか。

事務局 袋の破損はなかった。飛灰の重量や吊り上げる支点のずれにより、吊り紐が破損したものとみている。

委 員 詰替え作業の安全管理も問題なかったか。

事務局 万全の態勢で作業したところである。

(2) 舞川清掃センター住民健康診断について

(事務局が会議資料により説明を行った。)

(質疑応答)

委 員 受診希望日は書かなくても良いのか。

事務局 希望する日付に丸をしていただくか、どちらでも良いに丸をしていただきたい。

委 員 毎年数名、申込締切り後に提出する方がいる。期限を過ぎた場合、いつまでだったら申込みを受理してもらえるか。

事務局 多少の融通がきくため、例年だと1月上旬頃までであれば受付できると思われる。

委 員 かなり余裕を持った回答をいただいたが、申込期限の週あたりまでと考えて良いか。

事務局 それで問題ない。

委 員 部落の新年会で健診申込みのPRを行っているため、遅れて申し込む方がいると思われるが、よろしく願いたい。

委 員 受診者の推移についてはどうなっているか。

事務局 令和6年度は前年度比較で1名減となっている。受診者数は令和5年度は116名、令和6年度は115名であった。

委 員 受診者数は、2日間の日程に対して多すぎたり、少なかったりするのか。

事務局 受付開始の時間帯は混み合うが、それ以外の時間帯は人がまばらであるため、多少の増加は問題ない。

朝食を食べないで受診いただくため、早めの時間帯は混み合う傾向にあるが、食べなくても大丈夫な方は、遅い時間に受付していただくとスムーズに受診できる。

10 その他

(議事以外の質疑応答)

委 員 埋立ては後何年程度か。

事務局 これまでは、令和8年度くらいでいっぱいになると見込んでいたが、現在は令和8年度から更に2年程度は延びると見込んでいる。新一般廃棄物最終処分場の埋立て開始までの余力はあると考えている。

委 員 あと4年は埋立てできるということか。

事務局 そうである。

委 員 跡地利用について、そろそろ考え始めても良い頃だと思う。来年度からは他市町村の情報収集や事例視察などを含めて検討しても良いと思う。

事務局 先が見えているため、運営委員同行での先進地視察などについては、組合で検討して運営委員会で協議したい。

委 員 最終処分場跡地の利用に条件や制限はあるのか。

事務局 地盤が強くないため、建物などは建てられない。一般的にはゲートボール場や運動場、公園や太陽光発電などが考えられる。

委 員 埋立物に影響が出ないようなものということか。

事務局 そうである。

最終処分場は地盤耐力がないため、建物を建てるには不向きであると思われる。

委 員 公園や運動場は一般的なため、人が集まるような跡地利用を期待したい。

また、部落への還元も期待している。

委 員 これから跡地利用についての意見交換が活発化していくと思われるが、処分場としての利用が終了すれば、意見として出たようなものが具現化されることが望ましい。話合いの場などで少しずつ話題に出していただきたい。

委 員 一関市生活環境課で、震災当時の雨樋土砂などを敷地内で一時的に埋め立てたものの放射能濃度を再測定するという話があった。国の方針が決まっていないため、処分などの詳細は分からないとのことだが、事務局で知っている情

報はないか。

事務局 閉校になった学校で、一時的に埋め立てした場所が定かではないところもあり、場所の再確認と放射能濃度の再調査も兼ねて行うという話は聞いたことがあるが、組合に対しての説明があったわけではなく、最終処分場へ持ち込むという話も聞いていない。仮に組合に対して埋め立てしたい旨の話があった場合には、運営委員会で協議をした上で回答することとなる。

委員 国の方針が決まり次第とのことだったが、何か情報がないかと思い確認した。

事務局 現時点では、組合への説明はない状況である。

11 担当課 一関清掃センター